

新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係

滝島紀子¹⁾ 森智恵子¹⁾

要旨

本研究は、プリセプターからみた新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を明らかにした。その結果、新卒看護師の看護実践上の困難点には「基礎学力」では、わかりやすい記録が書けない、文章力などの書く力、「専門知識」では看護記録や診療援助に関する看護実践に必要な知識など、「基礎学力」「専門知識」に関係するものもあるが、接遇、コミュニケーションが図れない、自分からやろうとしない、自分で考えようとするなど「社会人基礎力」の「規律性」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」などに関係するものが多いことが明らかになった。この結果より、看護基礎教育における看護実践能力を育成するうえでの教育内容については、「基礎学力」では書く力の育成を図る、「専門知識」では確実な知識の修得を図る、「社会人基礎力」では各能力要素の育成を図ることの必要性が示唆された。

キーワード：看護基礎教育 看護実践上の困難点 社会人基礎力

I はじめに

看護基礎教育に対しては、「近年、国民の医療への意識が高まり、看護職員に対する期待も大きくなっている。また、保健医療福祉サービスの内容、方法、場の多様化が進んでおり、看護職員には他職種との連携や役割の拡大などが期待されている。こうした保健医療福祉の変化や国民の期待に応えることのできる看護専門職としての基礎的能力を有する看護職員を育成することが看護教育の喫緊の課題となっている」¹⁾といわれていることから、いずれの看護基礎教育機関においても、将来、看護師として活躍できることをめざして学生の看護実践能力の育成を図るための取り組みを行っていることと思われる。

このような看護師として活躍できることをめざした取り組みのなかでも看護学は実学であるため、とりわけ臨地実習が重要になる。臨地実習については「いかなる状況に対しても、知識、思考、行動というステップを踏み最善な看護を提供できる人材として成長していく基盤となるような教育を提供することが必要不可欠である」²⁾といわれていることから、臨地実習においては、“必要時、教員・指導者のアドバイスを受けながらも、学生が主体となって知識

を総動員して自分で判断し、判断したことを実施し、実施したことを評価する”というプロセスを踏んだ学びができるようにしていることと思われる。このような学生が主体となった学びは、看護師となつてからの仕事へとつながる学びである。

看護基礎教育でこのような学びをしても、「臨床現場で必要とされる臨床実践能力と看護基礎教育で修得する看護実践能力との間には乖離が生じ、その乖離が新人看護職員の離職の一因であると指摘されている」³⁾といわれているように新卒看護師が仕事をするうえで必要となる能力には課題があり、この課題に対する方策として「看護基礎教育と臨床現場との乖離を埋めるためには、看護基礎教育の充実を図るとともに、臨床実践能力を高めるための新人看護職員研修の実施内容や方法、普及方策について検討し、実施に移すことが求められている」⁴⁾という見解から「新人看護職員研修ガイドライン」⁵⁾がだされ、平成22年度から新人看護職員研修は努力義務化されている。

このような状況において、看護基礎教育で修得した看護実践能力と臨床現場で必要とされる臨床実践能力の乖離を小さくするためには、看護基礎教育の教育成果である新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められる能力の関係から看護基礎教育における教育内容の課題を明らかにし、課題に対

1) 川崎市立看護短期大学

する取り組みを行っていく必要があると思われる。

そこで、新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を明らかにした先行研究をみたところみあたらなかったため、今回は、他者評価という観点から新卒看護を担当しているプリセプターからみた新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を明らかにした。その結果、看護基礎教育における看護実践能力を育成するうえでの教育内容について示唆を得たので、ここに報告する。

II 研究目的

新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を明らかにし、看護基礎教育における看護実践能力を育成するうえでの教育内容についての示唆を得る。

III 用語の定義

仕事の現場で求められている能力⁶⁾：

経済産業省が提唱した「基礎学力」「社会人基礎力」「専門知識」「人間性・基本的な生活習慣」の4つで構成される職場や地域で活躍する上で必要となる力(図1)。

「基礎学力」とは、読み書き、計算、ITスキルなど⁷⁾、「社会人基礎力」とは、職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力⁸⁾、「専門知識」とは仕事に必要な知識・技能など⁹⁾、「人間性・基本的な生活習慣」とは、責任感や思いやり、公共心、倫理観、基本的なマナー、一般常識、教養などですべての活動の基盤となるもの¹⁰⁾

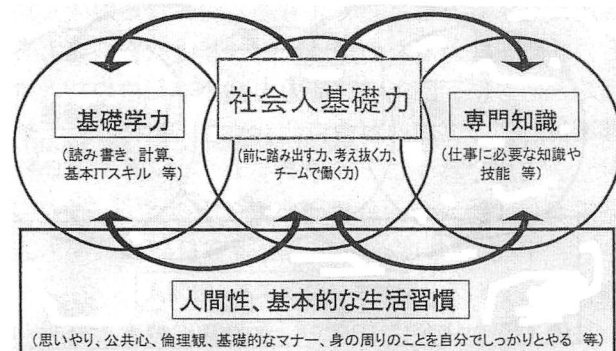


図1 職場や地域で活躍する上で必要となる力
〔経済産業省編：社会人の基礎力の手引き、p2, 2010〕より

IV 研究方法

1 対象：300床以上の総合病院で、研究協力が得られた46施設に勤務する新卒看護師を担当しているプリセプター120名（専門学校を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプター80名、大学を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプター40名）

2 期間：2013年1月

3 方法：自作の質問紙（無記名自記式）による調査

調査紙は、46病院の看護部宛に郵送し、看護部から該当する看護師に調査紙を配布してもらった。回収は、看護部から調査を依頼された看護師が、調査紙に添付した封筒にて自分の意思で回答・返送する方法を用いた。尚、調査の依頼にさいしては、研究の主旨と個人情報保護が保護されることを書面で説明した。

4 調査項目：以下の項目について、1)はいずれかに○、2)～7)は自由記述形式とした。尚、2)～6)の項目は、基礎看護技術系の著書の構成を参考に抽出した。

- 1) プリセプターをしている新卒看護師の看護基礎教育機関（専門学校または大学）
- 2) 援助の人間関係の構築における新卒看護師の困難点
- 3) 生活行動の援助における新卒看護師の困難点
- 4) 診療の援助における新卒看護師の困難点
- 5) 指導・教育における新卒看護師の困難点
- 6) 看護記録における新卒看護師の困難点
- 7) 新卒看護師の困難点を低減するために看護基礎教育に望むこと

5 分析方法：

- 1) 専門学校を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプターの挙げた困難点・大学を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプターの挙げた困難点それぞれを2)～7)の各項目の記述内容を類似性に注目して分類し、新卒看護師の看護基礎教育機関別の傾向をみた。
- 2) 1)で明らかになった傾向を考慮しながらも、新卒看護師の全体的な看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を明

らかにするために、専門学校を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプターの挙げた困難点と大学を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプターの挙げた困難点を併せ、仕事の現場で求められている能力の構成要素である「基礎学力」「専門知識」「社会人基礎力」に分類し、新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を見た。「社会人基礎力」については、「前

に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」という“3つの力”と、それらを構成する「主体性」「課題発見力」「発信力」といった12の具体的な能力要素¹¹⁾で成り立っているため能力要素で分類した(表1)。また、『人間性・基本的な生活習慣』については、『チームで働く力』の能力要素『規律性』に含まれる¹²⁾ため、上記の3つを分類枠とした。分類は客観性を高めるために2名で行った。

表1 社会人基礎力はどう構成されるか - 12の能力要素と定義 -

3つの力	12の要素	定義
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見を分りやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対する力

〔経済産業省：社会人基礎力の手引き〕より

6 倫理的配慮：

データを研究目的以外には使用しないこと、調査紙は無記名であるため個人は特定されないこと、研究終了後は確実にデータを廃棄すること、調査紙に添付した封書での返送は自由意思に基づくものであり、返送によって研究への同意とみなすことを文書で記した。尚、本研究は川崎市立看護短期大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

IV 結果

1 対象の概要

調査紙の回収数は86、回収率は71.6%であり、回収数86の内訳は、専門学校を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプター（以下「専門プリセプター」とする）61、大学を卒業した新卒看護師を担当しているプリセプター（以下「大学プリセプター」とする）25であった。

2 新卒看護師の看護実践上の困難点（表2）

専門プリセプター・大学プリセプターからみた新卒看護師の看護実践上の困難点は、以下の通りであった。

1) 援助的人間関係の構築において

専門プリセプター・大学プリセプターともに挙げていたのは「接遇」「患者とコミュニケーションが図れない」「患者の個別性に応じたコミュニケーションが図れない」「患者や家族との関係（距離）のとり方がわからない」であり、専門プリセプターのみが挙げていたのは「反応が乏しい」であった。

2) 生活行動の援助において

専門プリセプター・大学プリセプターともに挙げていたのは「対象にあった援助ができない」「環境整備ができない」であり、専門プリセプターのみが挙げていたのは「安全への配慮ができない」「整理整頓・後片付けができない」「自己流で行う」「自分で考えようとしなない」「自分からやろうとしない」などであった。

3) 診療の援助において

専門プリセプター・大学プリセプターともに挙げていたのは「メモを取らない」「自分からやろうとしない」「検査の説明ができない」であり、専門プリセプターのみが挙げていたのは「同一の検査や処置であっても何度も指導しないとできない」「検査や処置の手順がわからない」「無菌操作

ができない」「検査の目的がわからない」「検査後の観察項目がわからない」「想定外のことが起こるとパニックになる」「安全への配慮ができない」「清潔・不潔の区別がつかない」「事前学習をしてこない」などであった。大卒プリセプターのみが挙げていたのは「指導しないとできない」であった。

4) 指導・教育において

専門プリセプター・大学プリセプターともに挙げていたのは「わかりやすい説明ができない」「事前学習をしてこない」であり、専門プリセプターのみが挙げていたのは「マニュアル以外の説明ができない」「同一の指導内容であっても何度も指導しないとできない」「指導内容の根拠がわからない」「患者の理解度を確認していない」などであった。

5) 看護記録において

専門プリセプター・大学プリセプターともに挙げていたのは「SOAP記録が書けない」「記録に残すべきことがわからない」「経時記録が書けない」「専門用語がわからない」であり、専門プリセプターのみが挙げていたのは「アセスメントができない」「わかりやすい記録が書けない」「看護過程の展開ができない」「学校と異なる臨床の記録様式に戸惑う」「フォーカス記録が書けない」「看護診断の活用ができない」などであった。

6) 新卒看護師の困難点を低減するために看護基礎教育に望むこと

専門プリセプター・大学プリセプターともに挙げていたのは「接遇」「コミュニケーション力」「基本的な看護技術」「社会人としてのマナー」「言葉づかい」「患者の立場になって考える大切さ」「アセスメント力」「看護記録」「自己教育力」であり、専門プリセプターのみが挙げていたのは「多重業務」「考える力」「基本的な看護技術についての知識」「対象にあった援助を行うさいの考え方」「表現力」「環境整備」「学校での学びと臨床での実施のギャップの最小化」「文章力」「省察力」「観察力」などであった。

3 新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係（表3）

新卒看護師の看護実践上の困難点と「基礎学力」「専門知識」「社会人基礎力（能力要素）」の関係は、以下の通りであった。

表2 新卒看護師の看護実践上の困難点

項目	専門プリセプター	大学プリセプター
構築的 援助的 人間関係 の 構築 において	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇 (51) (挨拶ができない、患者や家族に対する言葉づかいが不適切、タメ口をきく、敬語が使えない、家族や患者に対する態度が不適切 など) ・ 患者とコミュニケーションが図れない (22) (声掛けができない、言葉掛けができない、話し方がわからない など) ・ 患者の個別性に応じたコミュニケーションが図れない (9) (年齢にあわせた、高齢者 など) ・ 反応が乏しい (3) ・ 患者や家族との関係 (距離) のとり方がわからない (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇 (17) (挨拶ができない、タメ口をきく、敬語が使えない など) ・ 患者とコミュニケーションが図れない (5) ・ 患者の個別性に応じたコミュニケーションが図れない (4) ・ 患者や家族との関係 (距離) のとり方がわからない (1)
生活行動 の 援助 において	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象にあった援助ができない (16) ・ 環境整備ができない (11) ・ 安全への配慮ができない (6) ・ 自分で考えようとしなない (6) ・ 整理整頓、後片付けができない (5) ・ 自己流で行う (2) ・ 自分からやろうとしなない (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象にあった援助ができない (5) ・ 環境整備ができない (2) ・ 新生児の沐浴ができない (1)
診療 の 援助 において	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同一の検査や処置であっても何度も指導しないとできない (10) ・ メモを取らない (6) ・ 検査や処置の手順がわからない (4) ・ 無菌操作ができない (4) ・ 検査の説明ができない (3) ・ 検査の目的がわからない (2) ・ 検査後の観察項目がわからない (2) ・ 想定外のことが起こるとパニックになる (2) ・ 安全への配慮ができない (2) ・ 清潔・不潔の区別がつかない (2) ・ 事前学習をしてこない (2) ・ 自分からわかってほしい (1) ・ なかなかコツがつかめない (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分からやろうとしなない (3) ・ 指導しないとできない (2) ・ メモを取らない (2) ・ 検査の説明ができない (1)
指導・ 教育 において	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかりやすい説明ができない (7) ・ マニュアル以外の説明ができない (7) (マニュアルの内容をそのまま読んでいる) ・ 事前学習をしてこない (5) ・ 同一の指導内容であっても何度も指導しないとできない (3) ・ 指導内容の根拠がわからない (2) ・ 患者の理解度を確認していない (2) ・ 上から目線で指導している (1) ・ 想定外の患者からの質問にあわててしまう (1) ・ 自分からやろうとしなない (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習をしてこない (3) ・ わかりやすい説明ができない (2)
看護記録 において	<ul style="list-style-type: none"> ・ SOAP 記録が書けない (22) ・ アセスメントができない (13) ・ 経時記録が書けない (8) ・ わかりやすい記録が書けない (6) ・ 看護過程の展開ができない (5) ・ 記録に残すべきことがわからない (5) ・ 学校と異なる臨床の記録様式に戸惑う (4) ・ フォーカス記録が書けない (4) ・ 専門用語がわからない (4) ・ 看護診断の活用ができない (3) ・ 観察項目がわからない (2) ・ 看護理論がわからない (1) ・ 看護計画の立案ができない (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SOAP 記録が書けない (4) ・ 記録に残すべきことがわからない (3) ・ 経時記録が書けない (1) ・ サマリーが書けない (1) ・ アセスメントに時間がかかる (1) ・ 専門用語がわからない (1)

項目	専門プリセプター	大学プリセプター
新卒看護師の困難点を低減するために看護基礎教育に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇 (16) ・コミュニケーション力 (14) ・考える力 (9) ・基本的な看護技術 (7) ・アセスメント力 (7) ・多重業務 (7) ・自己教育力 (6) ・言葉づかい (6) ・看護記録 (6) ・基本的な看護技術についての知識 (5) ・対象にあった援助を行うさいの考え方 (4) ・患者の立場になって考える大切さ (4) ・表現力 (4) (自分の思っていること、感じていること、考えていることを言葉で表現できるようにしてほしい) ・環境整備 (4) ・学校での学びと臨床での実施のギャップの最小化 (3) ・文章力 (3) ・社会人としてのマナー (3) ・省察力 (2) (自分の行動を振り返る、できているところ・できていないところがわかる) ・観察力 (2) ・フィジカルアセスメント (1) ・人間関係のつくり方 (1) ・異常時の報告の必要性 (1) ・ME 機器の取り扱い (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な看護技術 (3) ・コミュニケーション力 (3) ・社会人としてのマナー (3) ・接遇 (3) ・言葉づかい (2) ・疑問を持つ大切さ (1) ・患者の立場になって考える大切さ (1) ・アセスメント力 (1) ・看護記録 (1) ・自己教育力 (1) ・医療者としての態度 (1)

表3 新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係

項目	基礎学力	専門知識	能力要素	社会人基礎力
援助的 人間関係 の構築 において			主体性	・反応が乏しい (3)
			傾聴力	・患者の個別性に応じたコミュニケーションが図れない (13)
			柔軟性	・患者とコミュニケーションが図れない (27) ・患者の個別性に応じたコミュニケーションが図れない (3)
			状況把握力	・患者や家族との関係 (距離) のとり方がわからない (3)
			規律性	・接遇 (68)
助に 生活行動の 援		・対象にあった援助ができない (21) ・環境整備ができない (13) ・新生児の沐浴ができない (1)	主体性	・自分からやろうとしない (2)
			課題発見力	・安全への配慮ができない (6) ・自分で考えようとする (6) ・自己流で行う (2)
			規律性	・整理整頓、後片付けができない (5)
診療の 援助 において		・検査や処置の手順がわからない (4) ・無菌操作ができない (4) ・検査の説明ができない (4) ・検査の目的がわからない (2) ・清潔・不潔の区別がつかない (2) ・検査後の観察項目がわからない (2)	主体性	・自分からやろうとしない (11) ・メモを取らない (8) ・事前学習をしてこない (2)
			課題発見力	・同一の検査や処置であっても何度も指導しないとできない (10) ・指導しないとできない (2) ・安全への配慮ができない (2) ・なかなかコツがつかめない (1)
			計画力	・指導しないとできない (2)
			創造力	・なかなかコツがつかめない (1)
			ストレスコントロール	・想定外のことが起こるとパニックになる (2)
			指導・ 教育 において	
課題発見力	・マニュアル以外の説明ができない (7) ・同一の指導内容であっても何度も指導しないとできない (3)			
発信力	・わかりやすい説明ができない (9)			
傾聴力	・患者の理解度を確認していない (2)			
規律性	・上から目線で指導している (1)			
ストレスコントロール	・想定外の患者からの質問にあわててしまう (1)			
看護 記録 において	・わかりやすい記録が書けない (6)	・SOAP 記録が書けない (26) ・アセスメントができない (13) ・経時記録が書けない (9) ・記録に残すべきことがわからない (8) ・看護過程の展開ができない (5) ・専門用語がわからない (5) ・フォーカス記録が書けない (4) ・看護診断の活用ができない (3) ・観察項目がわからない (2) ・サマリーが書けない (1) ・看護理論がわからない (1) ・看護計画の立案ができない (1) ・アセスメントに時間がかかる (1)	課題発見力	・学校と異なる臨床の記録様式に戸惑う (4)
新卒 看護 基礎 教育 に 望む こと に 看護 基礎 教育 に 望む こと を 低減 する ため	・文章力 (3)	・アセスメント力 (7) ・基本的な看護技術 (7) ・多重業務 (7) ・看護記録 (7) ・基本的な看護技術についての知識 (5) ・対象にあった援助を行うさいの考え方 (4) ・環境整備 (4) ・観察力 (2) ・フィジカルアセスメント (1) ・ME 機器の取り扱い (1) ・異常時の報告の必要性 (1)	主体性	・自己教育力 (7)
			課題発見力	・考える力 (9) ・疑問を持つ大切さ (1)
			創造力	・学校での学びと臨床での実施のギャップの最小化 (3)
			発信力	・表現力 (4)
			柔軟性	・コミュニケーション力 (17) ・人間関係の作り方 (1)
			状況把握力	・患者の立場になって考える大切さ (5) ・省察力 (2) ・人間関係のつくり方 (1)
			規律性	・接遇 (19) ・言葉づかい (8) ・社会人としてのマナー (6) ・医療者としての態度 (1)

1) 援助的人間関係の構築において

全てが社会人基礎力に分類された。

2) 生活行動の援助において

「対象にあった援助ができない」「環境整備ができない」「新生児の沐浴ができない」などは専門知識、他は社会人基礎力に分類された。

3) 診療の援助において

「検査や処置の手順がわからない」「無菌操作ができない」「検査の説明ができない」「検査の目的がわからない」「清潔・不潔の区別がつかない」「検査後の観察項目がわからない」などは専門知識、他は社会人基礎力に分類された。

4) 指導・教育において

「指導内容の根拠がわからない」「指導の目的がわからない」などは専門知識、他は社会人基礎力に分類された。

5) 看護記録において

「わかりやすい記録が書けない」は基礎学力、「学校と異なる臨床の記録様式に戸惑う」は社会人基礎力、他は専門知識に分類された。

6) 新卒看護師の困難点を低減するために看護基礎教育に望むこと

「文章力」は基礎学力、「基本的な看護技術」「アセスメント力」「多重業務」「看護記録」「基本的な看護技術についての知識」「対象にあった援助を行うさいの考え方」「環境整備」「観察力」などは専門知識、他は社会人基礎力に分類された。

V 考察

1 新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係について

専門プリセプターの挙げた困難点と大学プリセプターの挙げた困難点をみると、「同じことを何度も指導しないとできない」「安全への思慮ができない」「アセスメントができない」、看護基礎教育に望むことでは「基本的な看護技術についての知識」「対象にあった援助を行うさいの考え方」「多重業務」「文章力」「表現力」などは専門プリセプターのみが挙げていた。これは、「師長を対象に行った『看護大学を卒業した新人看護師と専門学校を卒業した新人看護師の就職直後と半年後の看護実践の実態調査』で明らかになった専門学校を卒業した新人看護師に対しては、看護大学を卒業した新人看護師よりも思考力や文章力の強化が必要である」¹³⁾という見解と同じ結果であった。したがって、新卒看護師の看護

実践上の困難点に対する取り組みを行うさいは、このような傾向を受けて行う必要がある。しかし、「看護師養成機関には、大学、短期大学、養成所（主として専修学校）、5年一貫校があるが、いずれの養成機関を卒業した新人看護師についても臨床実践能力が不足していることが指摘されている」¹⁴⁾といわれていることから、以下では、新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を専門プリセプターの挙げた困難点と大学プリセプターの挙げた困難点を併せてみていくことにする。

新卒看護師の看護実践上の困難点を仕事の現場で求められている能力である「基礎学力」「専門知識」「社会人基礎力」の分類でみると、「基礎学力」に該当したのは看護記録の「わかりやすい記録が書けない」、看護基礎教育に望むことの「文章力」であり、「専門知識」に該当したもので最も多かったのは看護記録に関する困難点、「社会人基礎力」に該当したものですべての困難点が「社会人基礎力」であったのは援助的人間関係の構築、多かったのは指導・技術、看護基礎教育に望むことに関する困難点、比較的多かったのは診療の援助に関する困難点であった。このことから、新卒看護師の看護実践上の困難点には、「基礎学力」や「専門知識」もあるが、「社会人基礎力」に関係したものが多いいえる。次では、「基礎学力」「専門知識」「社会人基礎力」別に困難点の要因と考えられることをみていく。

「基礎学力」についての困難点は、「わかりやすい記録が書けない」「文章力」であった。これらは、書く力であるが、書く力とはどのような力なのかをみると、「客観的な根拠や理由に基づいて自分の考えや意見を書くことができる、読み手が理解しやすい構成を意識して文章を書くことができる、事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる、単なる感想文ではなく、思考・分析・判断を伴う小論文を書くことができるなどの『自分の考えや意見などを正確に伝える論理的な文章を書く力』」¹⁵⁾といわれている。このことから、書くという行為を分析的にみると、書く以前には、書く内容や伝え方を考えるという思考段階があり、この段階を経て書き表すということになる。したがって、「基礎学力」の困難点の要因としては、「分析力・論理構築力などを含む論理的思考力」¹⁶⁾である考える力、「分析力や論理構築力を用いて組み立てた自分の考えや思いなどを具体的な発言や文章として、相

手や場面に配慮しつつ展開していける能力¹⁷⁾である表わす力の不足にあるものと考えられる。

「専門知識」についての困難点は、看護記録、診療の援助、看護基礎教育に望むことなどにあげられた内容であり、「看護実践に必要な知識」に関するものであった。知識の修得については、「学生は、臨地実習において講義や演習で学んだ知識を統合して個別の対象に合わせて看護を提供できるようになることが期待される。そのため、演習で判断する能力を身につけ、臨地実習において実際の看護実践のダイナミズムの中で体験して学んだ看護を基に、必要な知識を学ぶというような繰り返しの学習方法が必要である¹⁸⁾」といわれている。このことから、看護実践に必要な知識は講義や演習で学んだだけでは身につけにくいと、学んだ知識を実践で活用するという体験を通して身につけていくことが重要になる。したがって、「専門知識」の困難点の要因としては、学んだ知識の臨地実習での意識的な活用不足にあるものと考えられる。

「社会人基礎力」についての困難点は、看護記録以外のほとんどの項目で「前に踏み出す力」の「主体性」、「考え抜く力」の「課題発見力」、「チームで働く力」の「規律性」、援助的人間関係の構築をはじめとするコミュニケーション能力に関する「チームで働く力」の「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」であった。「主体性」については、「意欲・やる気に大きく関わる¹⁹⁾」ものであるが、「近年、日本の若者に自信のなさが指摘されている。自信のなさは意欲・やる気の低下につながる²⁰⁾」といわれている。今回の結果から「主体性」に関する困難点をみると、反応が乏しい、自分からやろうとしない、事前学習をしてこない、自己教育力などが挙げられていた。したがって、「主体性」の困難点の要因としては、「どの家庭も子どもの数が減り、彼らは親に守られ大事に育てられたのではないか²¹⁾」といわれていることから推察すると、自分が行わなくても周囲の人が行ってくれたために主体性が育っていない、周囲の人が行ってくれたために体験が乏しいことによる自信のなさによって自分から行動を起こさないなどがあるのではないかと考えられる。

「課題発見力」については、「いかなる状況、どんな些細な場面でも、問題点を発見、それを理解し解決法を生み出し、そして評価、検証しつつ実行に移していくという問題解決プロセスをたどる(力)²²⁾」といわれている。今回の結果から「課題発見力」に

関する困難点をみると、自分で考えようとしないう、指導しないとできない、マニュアル以外の説明ができない、自己流で行う、安全への配慮ができない、考える力などが挙げられていた。したがって、「課題発見力」の困難点の要因としては、「学問、技術などの急速な進展において、その活用・結合・融合をいかにスピーディに行うかは大きな課題である。その一方で、日本の教育は知識詰め込み型が中心だと言われ続けている²³⁾」といわれていることから推察すると、自分で考えるという体験の乏しさから考えるという意識が低い、考える体験の乏しさから自分のわかっている範囲で行うなどがあるのではないかと考えられる。

「規律性」については、「近年、学生全般において、言葉遣いやマナーといった基本的な生活能力や常識等の低下が指摘されていることから、成長発達期における人間的な資質の基盤形成に加え、基礎看護教育以降、医療専門職としての一般的・普遍的な資質・能力を養うことが重要となる²⁴⁾」といわれている。今回の結果から「規律性」に関する困難点をみると、接遇、言葉づかい、社会人としてのマナー、医療者としての態度などが挙げられていた。したがって、「規律性」の困難点の要因としては、「高度経済成長による地域共同体の崩壊と核家族化、その結果としての社会的関係の希薄化²⁵⁾」「インターネット社会と化して、コミュニケーション媒体も大きく変化し、人々はバーチャルな世界に身をおくようになった²⁶⁾」といわれていることから推察すると、直接対面して人間関係をつくる体験の乏しさ、体験の乏しさから相手の気持ちを推察することの困難さなどがあるのではないかと考えられる。

また、援助的人間関係の構築をはじめとするコミュニケーションに関する「チームで働く力」の「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」についての困難点をみると、患者とコミュニケーションが図れない、患者の個別性に応じたコミュニケーションが図れない、患者や家族との関係(距離)のとり方がわからない、わかりやすい説明ができない、患者の理解度を確認していないなどが挙げられていた。したがって、これらの困難点の要因としては、「規律性」同様、直接対面して人間関係をつくる体験の乏しさ、体験の乏しさから相手の気持ちを推察することの困難さなどがあるのではないかと考えられる。

2 看護基礎教育における看護実践能力を育成する うえでの教育内容についての示唆

「基礎学力」についての困難点の要因としては、考える力・表わす力の不足が考えられた。したがって、教育課程の全過程を通して考える力や表わす力の育成を図るための教育内容を考えていく必要がある。

「専門知識」についての困難点の要因としては、学んだ知識の臨地実習での意識的な活用不足が考えられた。したがって、学んだ知識を実践で活用し、確実な知識の修得を図るための教育内容を考えていく必要がある。

「社会人基礎力」の「主体性」についての困難点の要因としては、体験が乏しいことによる自信のなさによって自分から行動を起こさないことが考えられた。したがって、自己効力感をもって果敢にチャレンジできる教育環境を整えていく必要がある。

「問題発見力」についての困難点の要因としては、自分で考えるという体験の乏しさから考えるという意識が低いことが考えられた。したがって、「看護職員には一人で自律して考え判断する能力が必要になる」²⁷⁾といわれていることから、学生が自分で判断して行動し、行動結果を評価できる教育環境を整えていくとともに論理的思考力や批判的思考力の育成を図るための教育内容を考えていく必要がある。

「規律性」についての困難点の要因としては、直接対面して人間関係をつくる体験の乏しさ、体験の乏しさからくる相手の気持ちを推察することの困難さが考えられた。人間関係においては、「相手の気持ちや文学作品の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じとったり、感動したりできる情緒力、美的感性、もののあわれ、名誉や恥といった社会的・文化的な価値にかかわる感性・情緒を自らのものとして受け止め、理解できる情緒力、さらに、言葉の使い方に対し、微妙な意味の違いや美醜などを感じ取る言語感覚などが含まれる『感じる力』」²⁸⁾である感性が必要になるため、感性が育つ教育環境を整えていくとともに教育課程の全過程において人とかかわるさいの基本的な姿勢の育成を図るための取り組みをしていく必要がある。

「コミュニケーションに関する能力要素」についての困難点の要因としては、「規律性」同様、直接対面して人間関係をつくる体験の乏しさ、体験の乏しさからくる相手の気持ちを推察することの困難さ

が考えられた。コミュニケーションにおいては、「経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力、相手の態度や表情から、言葉に表れていない言外の思いを察することができる『想像する力』」²⁹⁾が必要になる。したがって、想像する力が育つ教育環境を整えていくとともに教育課程の全過程においてコミュニケーション力の育成を図るための取り組みをしていく必要がある。

VI 今後の研究と課題

今回は、新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力である「基礎知識」「専門知識」「社会人基礎力」との関係性をプリセプターの視点から明らかにした。今回は、新卒看護師の視点で看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係を明らかにし、看護基礎教育における看護実践能力を育成するうえでの教育内容についてのさらなる示唆を得たいと考える。

VII 結論

新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係性については、以下のことが明らかになった。

- 1 新卒看護師の看護実践上の困難点には、「社会人基礎力」に関係したものが多かった。
- 2 「基礎学力」についての困難点は、「わかりやすい記録が書けない」「文章力」など「書く力」であった。
- 3 「専門知識」についての困難点は、看護記録、診療の援助などに関する「看護実践に必要な知識」であった。
- 4 「社会人基礎力」についての困難点は、「前に踏み出す力」の「主体性」、「考え抜く力」の「課題発見力」、「チームで働く力」の「規律性」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」であった。

今回の研究結果を受けて、看護基礎教育における教育内容に対しては、「基礎学力」では「書く力」の育成を図る、「専門知識」では確実な知識の修得を図る、「社会人基礎力」では、各能力要素の育成を図ることなどの示唆が得られた。

引用文献

- 1) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. P 1, 2011.
- 2) 厚生労働省. 看護の質の向上と確保に関する検討会中間とりまとめ. P 1, 2009.
- 3) 厚生労働省. 新人看護職員研修ガイドライン. P 2, 2011.
- 4) 前掲3), P 2.
- 5) 前掲3). P 2.
- 6) 経済産業省編. 社会人基礎力の手引き. P 2, 2010.
- 7) 前掲6), P 3.
- 8) 前掲6), P 2.
- 9) 前掲6), P 3.
- 10) 前掲6), P 3.
- 11) 前掲6), P 2.
- 12) 前掲6), P 55.
- 13) 滝島紀子. 看護大学を卒業した新人看護師と専門学校を卒業した新人看護師の看護実践の実態 - 就職直後と半年後の比較調査から -. 看護人材育成. Vol.10, No.5, P103-108, 2013.
- 14) 前掲2), P 2.
- 15) 文化審議会答申. これからの時代に求められる国語力について. P10, 2005.
- 16) 前掲15), P7.
- 17) 前掲15), P8.
- 18) 前掲1), P12.
- 19) 前掲6), P36.
- 20) 前掲6), P36.
- 21) 前掲6), P22.
- 22) 前掲6), P45.
- 23) 前掲6), P44.
- 24) 厚生労働省. 看護基礎教育のあり方に関する懇談会論点整理. P5-6, 2008.
- 25) 吉武清實. 学生相談室から見てくる現代の学生気質. 日本看護学教育学会誌. Vol.23, No.2, P58, 2013.
- 26) 前掲28), P58.
- 27) 前掲24), P6.
- 28) 前掲15), P8.
- 29) 前掲15), P8.